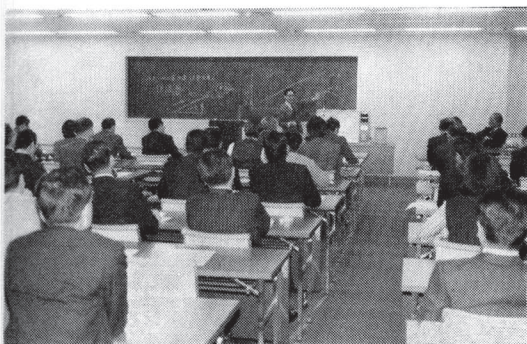




約100名の職員で熱気がムンムン

すが、特に最近エネルギー危機が叫ばれている折柄、去る4月18日に東京電力新宿支社の福岡営業課長を講師として招き、「省エネルギーについて」の講演会を企画開催しました。

長谷川総務課長の司会により、約1時間にわたり、電気の専門家の立場から各種の経験をふまえた、わかりやすい内容で話が進められました。

エネルギー事情は以前とは違うという時代認識を持つことが必要であるという省エネルギーの背景を話される一方、これらの対策として、例えば、従来の照明器具と新しく開発された省電力のものと比較実験や、水の供給過程、食糧の生産過程にもすべて電力が使用されているので、心して使用する必要があるなど有意義な話に終始しました。

最後に、玉乃部長（当時）から「我々としては常にエネルギー節約に心がけるとともにQCとの関連についても益々真剣に取り組んでゆかねばならないので、今後とも各位のご協力をお願いしたい」との挨拶がありました。

54年度の各種テスト実施の結果

●人事部

本年度の各種テストは、53年度自己申告表により受験を希望した職員を対象に、本店、各支店において4月末実施しました。

受験者数は英語テスト25名、法律知識テスト13名、業務知識テスト13名でした。前年度よりは若干受験者数は増えておりますが、全般的に低調です。

自己啓発向上の一環として、目標を定めて研鑽を積み、できるだけ多数の方が参加されるよう望んでおります。

なお、各テストについて上位成績者である下記の方々に努力賞を贈り表彰しました。（所属は当時）

英語テスト 尾崎 邦男職員（内務・火内）

法律知識テスト 鈴木 正職員（内務・自内）

三宅健太郎職員（内務・火内）

業務知識テスト 飯田 二郎職員（大分・営業）

本年度の内部検査について

●検査部

本年度の内部検査実施対象部店は、すでに、お知らせいたしましたが、本年度は、検査項目に「営業担当店内事務標準マニュアル」の実施状況を追加して、調査することになりました。

今後は、事務の効率化および、不備項目の改善に協力しあって、社外検査の講評では、さすがといわれたいものです。

■ 安田火災記念財団だより

交通遺児高校生に
奨学事業を開始

安田火災記念財団では、交通遭厄高校生への奨学事業を開始し、第1回奨学生として30名（28都道府県居住）を選定、東京では4月21日（土）午後安田火災本社ビルで、東京以外については4月下旬その地域の安田火災支店を通じ（遠隔地は送金により）、総額180万円の奨学金を贈呈しました。

この事業は、保護者が交通事故で死亡したり、負傷の後遺障害で働けない家庭の健康で成績優秀な高校生に、在学中の2年間、年額6万円の奨学金を贈るもので、同時に、近く第2回奨学生（2年生

30名)を選定する準備を進めています。

別掲は、4月19日付の『中国新聞』に掲載されたものですが、そのほか、『岩手日報』（4/19）、『愛媛新聞』（4/19）、『山梨日日新聞』（4/20）、『日本工業新聞』（4/24）、『日本保険新聞』（4/25）、『保険毎日新聞』（4/30、5/2）、『週刊自動車保険新聞』（5/9）などにも掲載されました。（5月20日現在、広報課連絡分のみ）

安田財団が交通遺児
高校生30人に奨学金
安田災害記念財団（三好武典理事長）は、交通遺児高校生18名の奨学金事業を始めることにし、昨日その第一回奨学生として27人を選んだ。

保護者が交通事故で死亡した人、負傷の後遺障害で働けず、家庭の健康で成績優秀な高校生が、在学の二年間、年額六万円の奨学金を受けるもの。毎年度、交通遺児委員会から推薦された二校二年生十人を選定し、3月、3月内閣府は次の通り。

は男女別

【女】上下（女）▽尾道東東（男）山口大津▽岡
山関西（男）【鳥取】八頭（男）